

大気中の二酸化炭素濃度の新しい情報を公開します

気象庁は、約20年間にわたる世界中の二酸化炭素濃度の分布や変化について「二酸化炭素分布情報」として、2月3日10時に、気象庁ホームページにおいて公開します。

二酸化炭素分布情報は、世界各地で観測された二酸化炭素濃度データをもとに、過去20年以上にわたる世界の二酸化炭素濃度の分布を解析したもので、このような長期にわたる情報の公開は世界で初めてです。

これにより、二酸化炭素の濃度が年々増加していく様子や、森林等の光合成に伴う季節変化、人間活動や自然による特徴的な地理的分布などを、わかりやすく示すことができるようになりました。

この情報は、地球温暖化問題に対して、各機関、地方自治体、企業などを始め、皆さま一人一人が進める様々な二酸化炭素削減対策の必要性を、さらにご理解いただくための一助となるものと期待します。

今回公開する情報の概要は以下のとおりです。

・情報の内容

1985年1月～2007年12月の期間の地表面付近の二酸化炭素の月別濃度分布を、分布図、変化のグラフや動画など、わかりやすい形で示します（別紙）。

・公開 URL

気象庁ホームページの「温室効果ガス監視情報」のページで公開します。

http://www.data.kishou.go.jp/obs-env/ghghp/info_ghg.html

・今後の計画

年1回（2月頃）、1年分のデータの追加を主とした更新を行います。

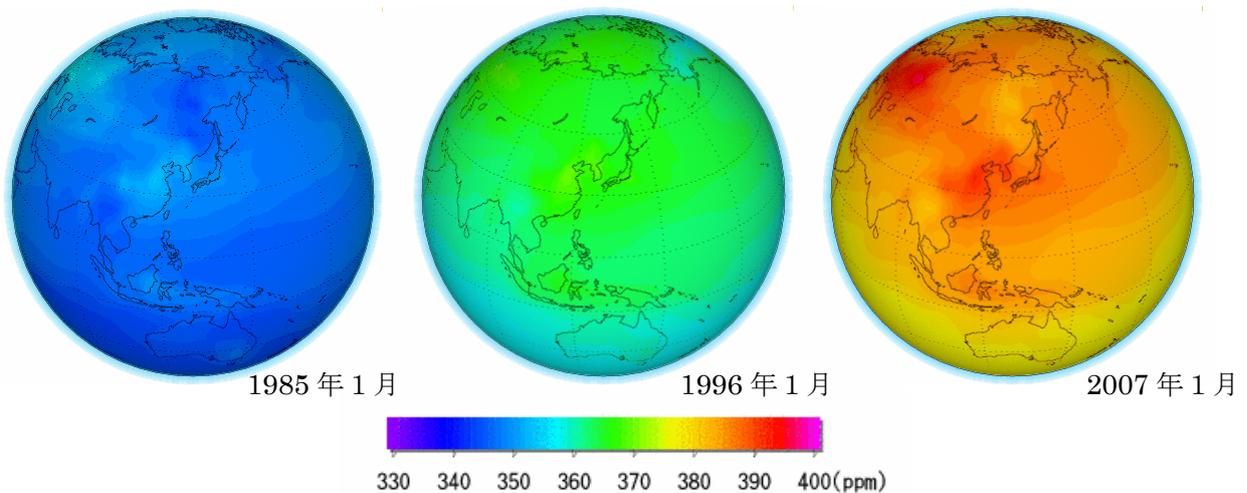
今回公開する情報は、世界各地153地点の二酸化炭素濃度観測値をもとに解析した結果ですが、今後取り込む地点数の増加などにより、情報の精度向上に努めます。

本件に関する問い合わせ先：地球環境・海洋部 環境気象管理官付
電話 03-3212-8341（内線4235）

公開する二酸化炭素分布情報の例

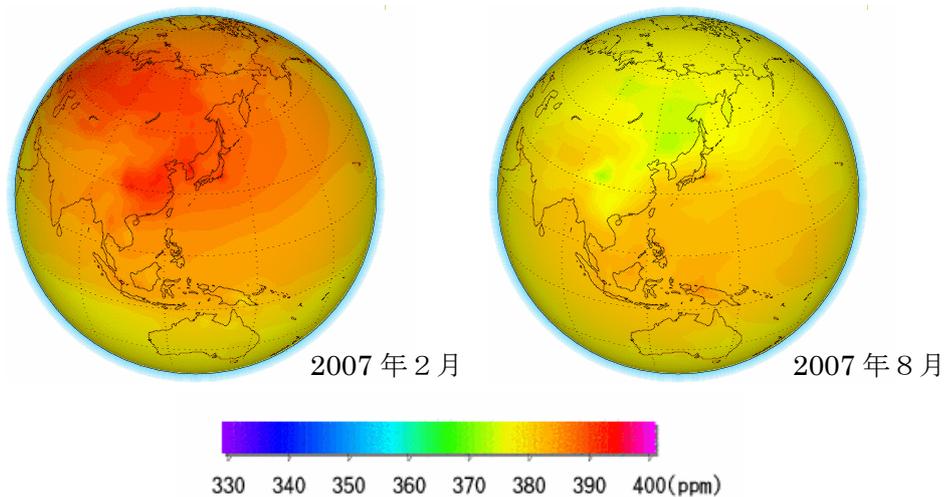
- 二酸化炭素濃度の経年変化。

左から 1985 年 1 月、1996 年 1 月、2007 年 1 月の濃度 (ppm : 体積比で百万分の一)。1985 年 1 月には 340ppm 前後だった濃度が、1996 年 1 月には 360ppm を超えるくらいになり、2007 年 1 月には 380ppm を超え、約 20 年間に約 40ppm 増加してきている。



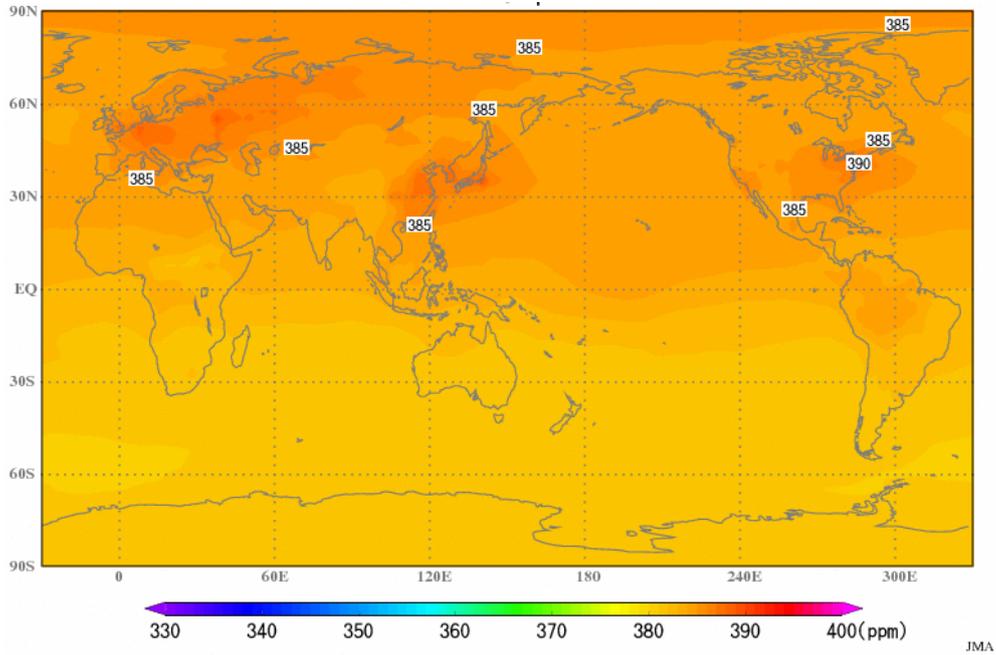
- 二酸化炭素濃度の季節変化。

左が 2007 年 2 月、右が 2007 年 8 月の濃度 (ppm)。北半球の冬 (2 月) には、植物は光合成よりも呼吸が勝るので、植物の多いシベリアなどでは二酸化炭素濃度が高くなる。一方、北半球の夏 (8 月) には、植物の多いシベリアでは光合成によって多くの二酸化炭素が吸収されるので濃度が低くなっている。



- 二酸化炭素濃度の地域的な分布。

2007年の年平均濃度 (ppm)。ヨーロッパ、東アジア、北米東部などで濃度が高い。



- 任意の地点の二酸化炭素濃度の変化。

クリックして地球上の任意地点の濃度の時間変化を見るようなページも用意している。ここでは、東京付近の濃度の変化の図を示す。季節変化をしながら、年々濃度が増加していることがわかる。

